

University Academic Repository

ギネス世界記録挑戦による地域活性化：
東日本大震災の被災地を事例として

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-10-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒部, 美希 メールアドレス: 所属:
URL	https://kaetsu.repo.nii.ac.jp/records/980

DISCUSSION PAPER SERIES

ギネス世界記録挑戦による地域活性化
ー東日本大震災の被災地を事例としてー
酒部美希

No. 2022-4
(2022 年 5 月)

RESEARCH INSTITUTE
OF
MANAGEMENT AND ECONOMICS

KAETSU UNIVERSITY

ギネス世界記録挑戦による地域活性化－東日本大震災の被災地を事例として－

酒部 美希*

要旨：

地域活性化の手段として数多くのイベントが行われている。しかし、その中でも「ギネス世界記録」挑戦は異色であることから注目度も高く、メディアでも紹介されることが多い。本稿では、東日本大震災被災地における２つのギネス世界記録挑戦事例を取り上げる。それぞれの挑戦の経緯を明らかにした上で、世界記録への挑戦を地域活性化の手段とする際に求められる要素と、挑戦が地域に何をもたらすのかを考察したものである。

事例から言えることは、地域の課題・特徴を捉えたテーマ設定、関係者の熱意、必要な組織体制の確保が、ギネス世界記録挑戦の成否に深く関わっていることである。また、世界記録への挑戦は、関係者が真剣に地域課題に取り組む、地元への愛着を呼び起こす機会となること、さらに新たな地域資源の創造を目的とした挑戦は、その後の地域発展にも着実につながるものである。

キーワード：ギネス世界記録、東日本大震災、アイデンティティ、意識改革

* 所属：嘉悦大学経営経済学部非常勤講師、連絡先：mikitaro@kaetsu.ac.jp

1 はじめに

2011年3月、東日本大震災の発生により甚大な被害が発生した。特に福島県では福島第一原子力発電所の事故によって、原発を中心に幅広い地域が帰宅困難地域に指定され故郷を離れて避難生活を送らざるを得ない人が多く出るなど、被災地に多くの深刻な影響をもたらした。震災以降、同県内では様々な復興支援活動が行われてきたが、本稿では、地域の復興に関する新たな試みとして注目を浴びた、福島県平田村と伊達市におけるギネス世界記録への挑戦事例を取り上げる。

平田村では澤村和明村長が主導して、住民が植えた1株から始まったあじさい園を「世界最多品種のアジサイ園」として世界一に導いた。また伊達市では公益社団法人だて青年会議所が主催者となり、地域の祭に併せて「世界最多のこいのぼり」に挑戦した。これらの挑戦について、その端緒や組織体制、取り組みの過程、成果についての実証を通して、ギネス記録挑戦が地域活性化にどのような役割を果たしたのかについて考察する。

2 ギネス世界記録挑戦の事例

2.1 福島県平田村

2.1.1 背景

平田村は、福島県南東部にあり、郡山市といわき市のほぼ中間に位置する。事故を起こした福島第一原子力発電所から南西に40kmの位置にある(図1)。市域は南北約15km、東西約10km、面積は93.42km²で、人口は1,948人(2021年1月1日現在)[1]。

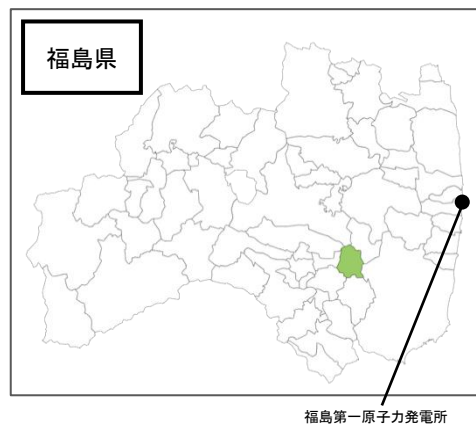


図1 平田村

平田村は、2011年に発生した東日本大震災により最大震度5強の地震により一部が断水するなど大きな被害を受けた[2]。また福島第一原子力発電所事故では避難指示等の対象地域には指定されなかったが、原発から40kmと比較的近い距離に位置する平田村では風評被害によって村民は苦しめられてきた。そのような状況で澤村和明平田村長は、村民の誇りを取り戻すための方策を検討し始めていた。

2.1.2 端緒

一般社団法人 59 の世界記録は、福島県の復興支援として県内でギネス世界記録挑戦を支援している非営利団体だが、その代表理事の連載コラム（福島民報）を澤村和明村長が見て、「ジュピアランドひらた」のあじさいで記録に挑戦するアイデアを思いついた。2018 年当時、「ジュピアランドひらた」には主に「シバザクラ園」と「世界のあじさい園」があり、世界のあじさい園には 50,000 平方メートルの敷地に 2,000 株の人気の高い品種や新しい平田村オリジナルのあじさいなど約 825 種類植栽されており、世界にあるほとんどの種類のあじさいを観ることができる人気施設であった[3]。

その後、平田村産業課（現：企画商工課）から（社）59 の世界記録事務局に会議出席要請があり、2018 年 1 月、平田村と（社）59 の世界記録関係者による会議が開催された。会議では、澤村村長から「よく平田村は何もないところだと言われる。『青空と緑のふるさと ひらた』というキヤッチコピーもあるが、それぐらいしかないという裏返しでもある。しかし、今の平田村にはあじさいがある。始まりは、住民が植えた 1 株のあじさいだった。それから少しずつ数を増やし、品種を増やしてきた流れから、村があじさい園を『ジュピアランドひらた』に開設した。震災で苦しむ平田村から住民の想いとともにより地域の魅力を届けたい。」という趣旨の発言があり、協議の結果、あじさい品種数でギネス記録に挑戦することが決定された。

2.1.3 組織体制

企画・運営は平田村産業課と「ジュピアランドひらた」の職員を中心に行われ、現場の準備などは植栽を担当する郡山市の造園業者が担当した。ギネスワールドレコーズへの記録申請手続き・問い合わせ等は（社）59 の世界記録が担うこととなった。

2.1.4 実施過程

2018 年 2 月、東京のギネスワールドレコーズジャパンで打ち合わせを行が行われた。ギネス社スタッフに「ジュピアランドひらた」の現状を伝え、挑戦する記録の種類を協議したところ、「展示されたアジサイの最多品種数（Most varieties of hydrangea on display）」への記録挑戦の提案があった。「展示されたアジサイの最多品種数」というカテゴリーは、その時点では登録されていなかったが、当時、中華人民共和国で記録を保持する「展示された菊の最多品種数」というカテゴリーがあることから、あじさいでも新規開設が可能ということであった。

問題は、「ジュピアランドひらたのあじさいの品種数が本当に世界一になり得るのか」という点であったが、調査した結果、品種数を誇る他のあじさい園でも、多くて 300 品種程度ということが確認された。

後日、ギネスワールドレコーズジャパンから平田村に、「ガイドライン」と呼ばれるギネス記録挑戦に関するルールブックが送られてきた。ガイドラインには守るべきルールが細かく記載されている。例えば、『記録の対象となる植物は、アジサイ属に分類されている事が証明されていること』、『展示では、アジサイの各品種の一般名および学名を明記』『展示されている全品種のリストを提出』などが定められていた。また『花が咲いている植物の数のみ記録に含まれる』という項目もあったが、それぞれの品種で花が咲く時期は異なるため、全ての品種の花が全て咲いている日はない

ことから、すでに植栽済みの品種全てが世界記録の認定対象となるわけではない。しかし、少しでも品種数の記録を伸ばすため、最も花が咲く時期が重なる時期を慎重に検討して、認定挑戦日を決める必要があった。また『少なくとも2名の専門家証人が、展示されている各品種が提出されているリストと合致するかを確認』『専門家証人は、（中略）植物学者や植物検疫所に所属する専門家、または植物学の教授など』という条件も付されていたことから、該当する専門家を探し、協力を依頼する作業も平行して行われた。挑戦当日はギネスワールドレコーズから公式認定員が来場し、専門家と共に品種数をカウントする形式が取られた。



図 2 認定審査日の「ジュピアランドひらた」



図 3 品種別番号

同年7月14日、「ジュピアランドひらた」においてギネス世界記録挑戦が行われた（図2）。平田村関係者によって、事前に作成したリストに合わせてあじさいの品種ごとに番号が振られ、品種のカウントに重複等が発生することのないよう事前準備がなされていた（図3）。

なお、敷地が広大であることから（図4）、ステージ設営などの事前準備は当日の認定審査開始直前まで続けられた。会場に佐藤コーマ公式認定員が来場（図5）、関係者と審査方法について最終確認が行われた。



図 5 会場遠景（一部）



図 4 公式認定員（右）

その後、公式認定員と3人の専門家証人が2班に分かれて審査が始まった（図6）。公式認定員は植物の専門家ではないため、大学教員2人と福島県農業改良普及所OB1人が専門家証人としてサ

ポートする形が取られた。公式認定員と専門家証人は、あじさい専門図書と平田村が用意した植栽リストを携行し、植栽されているあじさいがどの品種なのかを一つずつ丁寧に確認する。なお、平田村の挑戦は地元でも話題になっていたことから、メディアもこの挑戦を取材、報道した（図 7）。



図 6 品種数の確認



図 7 メディア取材

確認作業は5時間以上かかった。その後、カウントの重複等がないかを改めて確認する最終作業が行われた上で、公式認定員より「展示されたあじさいの総数は、世界記録である 372 品種」である旨の公表があり、澤村村長に認定証が手渡された（図 8）。



図 8 認定証の授与

2.1.5 成果

平田村の挑戦は多くのメディアに取り上げられたが、地元住民と村が年月をかけて地道に植栽してきたあじさいという地域資源を、全国的な観光資源とする契機となった。現在、約 5 万㎡の敷地に約 2 万 7 千株、825 種類のあじさいが植栽されている。この挑戦により「ジュピアランド ひらた」の観光客数は大きく伸び、翌年度（平成 31 年度）の観光客数は、前年比 44.7%増と大幅に伸びた（福島県全体の観光客数は微増（0.1%未満））[4]。ギネス世界記録への挑戦が、将来に残る地域資源の創造につながった一例と言える。

2.2 福島県伊達市

2.2.1 背景

公益社団法人だて青年会議所のある伊達市は、2006 年 1 月 1 日、旧伊達町、旧梁川町、旧保原町、旧霊山町、旧月舘町の 5 町が合併して誕生。福島県の北部に位置し、県庁所在地福島市の北東に隣接[5]。事故を起こした福島第一原子力発電所から北西に約 60km の位置にある（図 9）。人口は 56,786 人（2022 年 4 月 1 日現在）である[6]。



図 9 伊達市の位置

伊達市は、2011 年に発生した東日本大震災により最大震度 6 弱の地震によって、電気・水道が止まり多数の通行止めが発生するなどインフラに大きな被害を受けた。幸い死者・行方不明者は発生しなかったが、200 棟以上の家屋が全・半壊。また被災地域でありながら南相馬市など市外から 1,000 人以上の避難民を受け入れた。さらに福島第一原子力発電所事故によって放射性物質が主に北西方向に飛散したため、原発から北西に約 60km の位置にある伊達市は、育児に不安を覚える子育て世代の自主避難が続いていた。しかし同時に市内の除染や、全市民を対象とした被ばく検査の準備が進んでいた[7]。

2.2.2 端緒

伊達市内で開催予定の「だてな復魂祭 2014・霊山太鼓まつり」において復興イベントを検討していた公益社団法人だて青年会議所のメンバーが、偶然、上述の相馬農業高校のギネス世界記録挑戦についてラジオで聴き、青年会議所主催でも同様の挑戦を検討することになった。著者にも連絡が届いたため、記録挑戦を支援することになった。

2.2.3 組織体制

公益社団法人だて青年会議所が「だてな復魂祭 2014・霊山太鼓まつり」において、「世界最多のこいのぼり（1つの会場）」に挑戦する「だてに恋鯉プロジェクト～みんなで繋ごう鯉のぼり～」プロジェクトを主催することになり、こいのぼりに復興のメッセージを書いてもらうために市内の各小学校と連携する形が取られた。

2.2.4 実施過程

全国的な出生率の減少に加えて原発事故による避難により、伊達市やその周辺から将来を担う子どもたちが減り、人口減少にさらに拍車がかかった。そこで公益社団法人だて青年会議所は、伊達市を含む「だて地域」が安心して子育てができる街だと思ってもらえるよう、また子どもたちがイベントに参加することで「だて地域への郷土愛」を育み、名物となるモノを作り情報発信することで地域活性化の一助となればという思いから「だてに恋鯉プロジェクト」への挑戦が決まった。「鯉は、逆流の滝を昇り竜になる」との言い伝えがあり、「だて地域」が原発事故・子どもの人口減少の逆境を乗り越えられる街をつくるため、また震災後に途絶えてしまった「こいのぼりイベント」を後継に残すために、「だて地域」の特産品でもある「桃」の収穫時期 8 月に、桃と鯉のぼりを融合させたピンクのミニこいのぼりを掲揚し、ギネス世界記録に挑戦することになった[8]。

2011 年に香港で樹立された世界記録の 6,478 旆を上回る 7,000 旆以上のこいのぼりを用意し、市内の各小学校に配布し子どもたちに復興に向けたメッセージを書いてもらった。挑戦後はこいのぼりを子どもたちに返すため、回収時にどのこいのぼりがどの小学校の誰のものか厳重に管理された。

「だてな復魂祭 2014・霊山太鼓まつり」の開催から数日前より、会場となる保原総合公園の周囲にある照明灯を伝って囲うようにこいのぼりを配置することになった。今回は公式認定員に來場して審査を行うことになっていたため、到着前にセッティングを終えておく必要があったが、前日は大雨が降り、雷で会場周辺が停電になるほどの悪天候であった。また、会場設営用のクレーンが掲揚済みのこいのぼりを引っかけてしまうなどのトラブルにも見舞われた。審査当日は雨が止んだため、認定員の会場到着前に、青年会議所のメンバーによって用意したこいのぼりを全て掲揚することができた。しかし、会場は地面には水たまりやぬかるみが多数あるなどの状態で、イベント開催には不安な状況は続いていた。

午前 9 時、会場に公式認定員のマクミラン・舞氏が來場（図 10）。テントに関係者を集め、マクミラン・舞氏より審査について説明が行われた。審査は当日中に行わなければならないが、公式認定員 1 名で 7,000 匹以上のこいのぼりをカウントすることは困難なため、地元福島県警伊達警察署から檜村公男署長（当時）をはじめ 3 名の警察官と手分けしてこいのぼりの数の確認作業が行われることになった。「こいのぼりは 60 秒以上風になびいていること」というルールがあるためテントの屋根などの障害物にかさなり風になびいてない鯉のぼりは記録から除外しなければならない。その他、計測の方法や記録として数えてよい基準などを確認するための入念な打ち合わせが行われた（図 11）。



図 10 公式認定員が来場

図 11 関係者による打ち合わせ

「だてな復魂祭 2014・霊山太鼓まつり」が始まり、太鼓の演奏が行われるようになると地元住民も多数集まってきた（図 12）。出店やイベントを楽しむ人々もいれば、自分の復興メッセージが書かれたこいのぼりを探す子どもたちも見られた（図 13）。その脇で、公式認定員と補助する警察官は、靴を泥で汚しながらカウンターを片手に黙々とこいのぼりのカウントを続ける（図 14）。なお、こいのぼりには、復興に関するそれぞれの思いが書かれていた（図 15）。



図 12 イベントの様子



図 13 自作のこいのぼりを見る子ども



図 14 警察官による集計



図 15 こいのぼりに書かれた
復興メッセージ

主催者発表で約 3 万人もの来場者で盛り上がったイベントも終わりに近づくと、公式認定員と補助の警察官がテントに戻ってきて集計を始めた。ステージでは吉本興業所属のフルーツポンチ 2 名の進行によって発表の準備が整うと、集計を終えた公式認定員がマイクの前に立った。会場は静まり返り緊張が漂う中、公式認定員によって集計結果が発表された。「今回挑戦された世界記録、一つの会場で同時に吊るされた最も多い鯉のぼりの数。これまでの記録は、2011 年に香港で達成された 6,478 匹。そして今回記録として認められた鯉のぼりの数は 7,494 匹。世界記録認定、おめでとうございます。」という発表と同時に、会場は歓声と大きな拍手に包まれた。

その後、世界記録認定の証としてプロジェクトを主催した木幡睦人青年会議所理事長に公式認定証が手渡された（図 16）（図 17）。長期間準備をしてきた青年会議所メンバー達の喜びは大きく、来場していた仁志田昇司伊達市長（当時）からも称賛を受けた。



図 16 認定証授与



図 17 世界記録達成に沸く会場

2.1.5 成果

だて青年会議所の挑戦の様子は、地元テレビ局の情報番組や新聞によって繰り返し取り上げられただけでなく、「ギネス世界記録 2016」（いわゆるギネスブック）でも紹介された。会場にも約 3 万人の来場者が集まりイベントは成功し、主催者の思いは広く共有されることになった。このぼりの作成には子どもたちを含めて数千人の地元住民が参加するなど、震災からの復興を推し進めるためのエポック・メイキングなイベントとして、その役割は十分果たしたと認められる。

3 考察

ギネス世界記録への挑戦にはありとあらゆるものが含まれるが、本稿では地域課題をテーマとした挑戦を取り上げた。この 2 事例に共通しているのは、第 1 に、関係者間で地域課題の認識が共有されていること、自分たちの手で成功させるという強い意思と、真剣に取り組む姿勢である。換言すれば、その地域の課題解決や新たな地域資源の創出といった、地域住民や関係者が真剣に取り組みたいと考えるテーマを選んでいることである。

他方、地域の現状との整合性が乏しいテーマを設定すれば、逆に地域関係者の共感を得ることはできず、運営が困難になり参加者も集まらない。宮城県仙台市で行われた「仙台刈り」をテーマとした『同時にヘアスタイリングをした理容師の人数』という記録に挑戦した事例では、2014 年、2017 年と 2 度挑戦したがどちらも失敗に終わった[9][10]。どちらも十分な参加者が集まらなかったことが直接の原因だが、主催者にとっての「仙台刈り」が地域住民にとって共感を得られるテーマとは言えなかったためである。

第 2 に、ギネス世界記録挑戦を、その地域の将来を見据えた地域資源、文化の再確認、再構築あるいは創造のための有効な手段として位置付けていることであり、それが挑戦に成功する不可欠な要素になっていることである。今回の事例では、それぞれが地域の課題や特徴を捉え直した上でテーマを考え、記録挑戦へと繋げている。

第 3 に、主体となる組織の体制である。本稿の事例では、主体は自治体と青年会議所だったが、自治体の場合、組織として一定の運営能力があることから、首長や議会の理解を得られれば必要経

費の予算も確保でき、資金調達の課題も解消される。また、住民向けの広報誌を発行しているため、取り組みや成果の周知も行いやすいというメリットがあった。青年会議所の場合は、毎年行事を行っておりイベントに関するノウハウがあることが強みになっていた。また、会員を活用することにより予算・会場の確保も比較的容易であり、地域とのつながりもあるので集客力もあった。

ギネス世界記録に挑戦して失敗するケースは少なくないが、必要な資金が調達できなかった、あるいは当日予定していた参加者が集まらなかったケースが多い。適切なテーマ設定と同時に、記録挑戦に向けて組織的な取り組みができる、資金調達や必要な参加者を確保できる体制を作れるかどうか、挑戦の成否を分けることになる。

4 おわりに

現在も世界中でギネス世界記録挑戦が行われている中で、本稿では震災からの復興活動としての挑戦事例を取り上げ、考察を行った。活動の中心となったのは自治体や青年会議所であり、どの地域にもある団体だが、地域の課題・特徴を捉えたテーマ設定、関係者の熱意、必要な組織体制の確保によって、挑戦を成功に導くことができたと言える。テーマが地域に根差し、あるいは地域の共感を得るものであれば、地域関係者が真剣に課題解決に取り組む、あるいは地元に対する愛着を呼び起こす絶好の機会となる。さらに、平田村のように、将来に残る地域資源の創造を目的とした挑戦は、その後の地域発展につながる貴重な機会にもなり得ると考えられる。

引用・参考文献

- [1] 福島県市町村振興協会 HP「福島県市町村要覧 45 平田村」（2022 年 6 月 4 日）
<http://www.fksm.jp/youran/075035.html>
- [2] 福島県 HP「第 3 章 東日本大震災による被災状況の分析」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/57673.pdf>
- [3] 平田村 HP「ジュピアランドひらた」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.vill.hirata.fukushima.jp/site/jupialand/>
- [4] 福島県 HP「H31（R 元）観光客入込状況調査」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/467422.pdf>
- [5] 伊達市 HP「市の概要・沿革・歴史」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/soshiki/5/570.html>
- [6] 伊達市 HP「伊達市の現住人口」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/soshiki/3/38549.html>
- [7] 伊達市 HP「伊達市災害記録誌」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/soshiki/9/7146.html>
- [8] 公益社団法人だて青年会議所「過去の活動」（2022 年 6 月 4 日）
<https://www.jc681.com/organization/untitled.html>
- [9] とうほく復興カレンダー「集まれ！仙台刈り 400 人！ 仙台発祥のヘアスタイルでギネス記録に挑戦!!」（2022 年 6 月 4 日）

<http://www.re-tohoku.jp/blog/28415>

[10] READYFOR「仙台市に希望を届けたい！ 仙台刈りプロジェクト Z、ついに始動！」（2022 年 6 月 4 日）

https://readyfor.jp/projects/sendagari-p-z/accomplish_report